

平成29年度 民生常任委員会先進地視察研修報告書

- 期 日 平成29年8月23日（水）・8月24日（木）
- 視 察 先 山形県 天童市・上山市
- 参 加 者 委員8名・随員1名 合計9名

【 山形県天童市 】

- 人 口 62,056人（H29.7.1現在）
- 面 積 113.01平方キロメートル
- 視察事項 『子育て未来館 げんキッズについて』

1. 設立に至った経緯

- ・雨天時・冬期間に利用できる屋内の遊び場、気軽に子育ての話が出来る場が欲しいとの市民からの要望があったこと
- ・「子育て日本一を目指す」との行政の思いがあったこと（市長公約）
- ・近隣市に屋内型の遊戯施設があること
- ・平成21年度 第6次天童市総合計画重点プロジェクトに位置付ける
「子育て応援・定住促進プロジェクト」とする
- ・平成23年度 天童市子育て支援施設整備基本構想策定
市民検討委員会の委員による検討を行い、パブリックコメントを実施

2. 建設期間と費用

- ・建設期間は平成25年から27年の1年4か月間
- ・施設面積 10,475.79㎡
構 造 鉄骨2階建て
延床面積 2,226.75㎡
その他 緑地広場・駐車場（206台）・屋外トイレ
- ・工事関係費用 14億2千万円（国交省のまちづくり交付金5億6千万円）
- ・建設手法
プロポーザル方式による基本設計業者の選定

3. 平成28年度の利用状況

- ・利用状況 292,548人（市内33.2％・市外66.8％）
- ・一時あずかり 414人
- ・レッスンなどの利用件数 803人
- ・ファミリーサポートセンターの活動状況

利用会員は891人 主に利用が多いのは、保育園幼稚園のお迎え
子どもの習い事の支援

4. 管理運営

- ・指定管理者 東京ドームグループ（公募により選定）5年間の指定管理
*（株）東京ドームと（株）東京ドームスポーツの共同企業体
- ・指定管理委託料 9,376,000円

5. 今後の取り組み

- ・子育てサークルの育成
育児中の方を中心としたサークルを育成する方向で指定管理者と検討中
- ・地域交流、世代間交流の推進
山形定住自立圏の形成に関する協定書において、近隣市町と連携して相互利用の促進を図っていることから、市外からの利用も多くなっている。今後、祖父母と孫による講座などを検討している
- ・新事業の展開
地域に密着した活動として田植え体験や稲刈り体験など市民とともに実施していく

○所 感

- ・子供の遊び場ということだけにとらわれず、様々な講座が計画され、研修室もあり、大人にとっても有意義な時間が過ごせる場所として整備されていることに驚きと共に感心した。
- ・人気がある講座は直ぐに予約がいっぱいになるとのことで、人気の講座を提案する企画力にも重ねて感心、指定管理者の効果だと感じた。
- ・新たな子育てサークルを育成する方向で指定管理者と検討をしていきたいとのこと。今後の取り組みも大変楽しみだと感じ、本市の参考にさせて頂くべく、勉強となった。
- ・これまで近隣の施設を見てきましたが、あくまでも室内の遊び場のみの機能であり、保護者などを対象にしたレクシンプログラムが多く設けられており、利用者に魅力のある施設であると感じました。混雑しない限り入場制限が設けられないことや一時保育、ファミリーサポートセンター機能を有するなど、利用者にとって満足できる施設になっていると思われました。
- ・施設の立地場所については、区画整理された場所であり商店街や住宅地に隣接されており、利用者にとってよく配慮された場所であると感じた。また、施設の広さも充実しており子育て支援に対し、行政としての力の入れ具合が強く感じ取れた。
- ・行政トップ（市長）が、子育て支援に対する施策に傾注している姿勢が伺えた。
- ・指定管理者の選定がキーポイントであると感じた。また、遊具の選定をはじめ、利用者への対応、配慮は重要であると感じた。

【 山形県上山市 】

- 人 口 31,046人 (H29.7.1現在)
- 面 積 241.00平方キロメートル
- 調査事項 『上山型温泉クアオルト事業について』

1. 上山市の概要

- ・山形県上山市は人口31,632人、高齢化率35.33の人口減少、高齢化率増加傾向のまちとなっている。
- ・かみのやま温泉をはじめ、蔵王連峰の懐にあり、城下町、温泉町、宿場町の3つの顔を有する全国でも珍しいまちとなっている。
- ・文化的資源、果樹をはじめとする旬の食材や自然環境に恵まれたまち
- ・観光入込数年間70万人、宿泊者数29万人となっている。
- ・一人当たりの国民健康保険医療給付費は県平均より1万8千円増加

2. 上山型温泉クアオルト事業とは

- ・クアオルトとは、ドイツ語で健康保養地、療養地の意味があり、上山市と友好都市であるドイツのドナウエッシング市の取り組みを導入するに至った。
- ・市民の健康寿命延伸ばかりでなく、観光誘致に下級効果が期待できることから導入に至る。

3. 事業の目的

- ・市民の健康増進、交流人口の増加による地域活性化

4. 具体的な取り組みとして

- ・健康・観光・環境の3つの柱で官民挙げて取り組む事業とした
- ・上山クアオルト協議会の設置
行政・観光協会・医師会・果樹園協会・金融機関・商工会・学術機関
- ・はじめに「クアオルト健康ウォーキング」の導入
自分に合った歩行スピードで過度の負担にならないように
冷気・風・太陽光線などの気候要素の活用
森や山の傾斜を歩くところで持久力強化を上げる
@ドイツでは治療として実施される運動療法の1つとなっている
- ・温泉を利活用した温泉健康施設の整備 平成29年度は温泉掘削工事
- ・地場産・健康に配慮した食の開発→クアオルト膳・クアオルト弁当など栄養士の協力を得る

5. 成果として

- ・第4回ヘルスツーリズム大賞受賞（平成24年）
- ・第3回健康寿命を延ばそう！アワード大賞受賞（平成26年）
- ・第1回ジャパンツーリズム・アワード受賞（平成27年）
- ・第1回やまがた健康づくり大賞（平成27年）

6. 宿泊型新保健指導（スマート・ライフ・ステイ）

- ・平成27年厚生労働省の事業に採択される
- ・特定健康指導対象者、糖尿病予備軍などを対象に、宿泊施設や観光施設を活用し、運動や食生活の体験型の健康指導を実施し重症化や医療費適正化を目指す
- ・楽しみながら生活習慣の改善につながる「健康への気づきの旅」の提供

7. 今後の取り組みとして

- ・市民の総合的な健康づくり
水中運動が出来る温泉健康施設の建設
地域資源を活用した健康づくりプログラムの提供
医療機関や学術機関と連携した総合的な健康プログラムの提供
予防から治療まで、総合的な健康づくりの推進
- ・交流人口の拡大による地域活性化
生活習慣病や健康への気づきをテーマにした多様な滞在プログラムの提供
新たなヘルスケア産業の創出
長期滞在型の健康保養地づくり

○所 感

・温泉や地域の食材を活用することで地元ばかりでなく観光地の誘客に繋がる有効な手段だと思いました。本市においても、高齢者が増加することで今後の医療費増加が見込まれる中、各地域に健康ウォーキングコースを設けるなど、健康寿命の延伸に対応する事業が出来るのではないかと考えられました。

・本市は、現在、民間の温泉を利用した「北部健康福祉センター」を建設しようとしているが、上山市のクアオルト健康ウォーキングは参考にできると思う。

・事業の導入にあたっては、上山市の地形や温泉等をはじめ、様々な資源が生かせるのではとの職員からの提言があったと伺った。当市においての健康増進の取り組みとして、各地域を生かした様々なウォーキングコースの設置など導入すべきと考える。自治体の置かれている自然環境、風土を良く理解と分析をしての事業であり、素晴らしい取り組みだと考える。ただ、永く取り組んで事業成果が出てくるとも説明の中、市民の参加が不可欠であるため幅広い喚起も合わせていく事も大切である。本市においては、似たような観光ウォーキング事業等もあり、合わせてさらなる取り組みを考え、観光・健康事業としていくヒントを頂いた。